

第6回 淀川流域治水協議会 淀川（大阪府域）分会

開催日時：令和5年3月9日(木)13:00～14:00

会議形式：WEB会議

参加者：別紙参加名簿のとおり

議事概要

○議事

- 1) 水害リスクマップについて
- 2) 構成員の拡充について
- 3) 流域治水に関する取組事例の共有
- 4) 流域治水施策集の紹介

○結果概要

- ・淀川河川事務所から、水害リスクマップについて情報提供を行った。
- ・本分会の構成員に淀川河川レンジャーを追加することについて、協議会に提案することが了承された。
- ・「淀川水系流域治水プロジェクト 淀川（大阪府域）分会」の拡充（被害対象を減少させるための対策として「水害リスクマップの作成」を追加）について、本会に報告することが了承された。
- ・各構成機関から、流域治水に関する取組について情報共有を行った。
- ・淀川河川事務所から、流域治水施策集について情報提供を行った。

○各構成機関（地方公共団体）における流域治水に関する取組要旨

【気象庁大阪管区气象台 気象防災部 気象防災情報調整官】

協議会の皆様におかれましては、日ごろより気象行政のご協力ご尽力賜りましてありがとうございます。气象台からは取り組みとして防災教育と防災気象情報の改善として報告いたします。まず防災教育について、43 ページの大阪市さんの理科特別授業の中で竜巻・雷をテーマに実験を行い、气象台職員による解説やクイズなどを行っております。雷は子供たちが通学途中に遭遇する可能性のあるテーマであるため重要だと考えております。実験についてはHPでも公開しており、職員の皆様でも実験できるような形となっておりますのでよろしくお願いいたします。次の資料として、防災気象情報の改善として、「キキクル」の改善となります。「キキクル」とは災害への危険度を5段階の色で表示して確認できるようにしているものです。昨年度までは薄紫と濃い紫がありましたが、内閣府のガ

イドラインの避難指示一本化にあわせて、色を紫に統一いたしました。そして、特別刑法に対応する、災害切迫の色として黒色を新設し、5段階表示とさせていただいております。実際に発表したものの例として、44ページの黒の図のようなものになります。次の資料として、特別警報の資料の改善となります。先ほどのキキクルの黒色を特別警報の指標としました。これにより大雨特別警報浸水被害を今まで以上に絞り込んで発表して、有効な情報とできるようになりました。また、一般の方々には、キキクルの黒色を確認してもらい、どの位置が災害切迫しているかをわかるような形となっております。45ページの下にあるのが、実際に今年度発表した山形県・新潟県の事例となります。続きまして、線状降水帯の情報の改善となります。府県気象情報や地方気象情報の中で線状降水帯発生の可能性を半日程度前から呼びかけるようになりました。発表単位としては、地方予報区単位として近畿地方という形となっております。これにより、大雨に対する心構えを一段高めていただきたいと思います。46ページにあるのが今年度の実績ですが、線状降水帯の呼びかけを13回行っており、このうち3回は実際に発生しております。これは当初の予定通り4回呼びかけのうち1回発生するという予想通りの結果となりました。しかし、留意していただきたいのは、線状降水帯の形等の条件がありますが、呼びかけた中で発生していなくても大雨となっていることもあり、情報を呼び掛けた時には心構えを一段高めていただきたいと思います。続きまして、高潮の早期注意情報、警報級の可能性を今年から毎日発表するようにいたしました。これにより高潮災害に対して心構えを早い段階からとっていただくことが可能になりました。これは警戒レベル1にも位置付けられております。气象台からの説明は以上となります。来年度の防災気象情報の改善として、線状降水帯の情報提供などを改善していきたいと考えておりますので、来年度もよろしく願いいたします。

【環境省近畿地方環境事務所 環境対策課 地域適応推進専門官】

48ページより、今年度はR2年度から実施している広域アクションプラン策定事業の最終年度にあたり、ゲリラ豪雨対策分科会にて検討を重ねた自事態において実施すべきゲリラ豪雨対策を広域アクションプランとしてとりまとめ、3月中に公表する予定となっております。また、近畿2府4県の全基礎自治体の皆様にもこの広域アクションプランの電子データを収録したDVDを送付させていただく予定となっております。R5年度以降もゲリラ豪雨対策分科会を継続開催し、広域アクションプランに記載された内容に基づき、ゲリラ豪雨対策の一部について実例を創出するなど情報共有に取り組む予定です。具体的には、中学校を対象とした実証授業を実施し、国土交通省様にて整備していただいているXRAINという仕組みを用いて、夏休みの期間に実際のゲリラ豪雨の発生状況を観測していただくという内容となっております。今年度も京都府宇治市内の黄檗中学校・南宇治中学校の2校で実証授業を実施しております。多くの中学生の皆様実際にXRAINを活用してゲリラ豪雨の発生状況を観測していただきました。生徒だけではなく教員の皆様にも好評をいた

だいております。本流域治水協議会のメンバーである自治体の皆様におかれましては、ぜひ来年度からゲリラ豪雨対策のフォローアップ分科会にご参加いただき、中学校における実証授業の実施にご協力をお願いしたくご検討いただきましたら幸いです。49 ページについて、気候変動影響評価・適応推進授業の資料となっております。R5 年度の活動費用の根拠予算となっております。右下図②の気候変動適応地域づくり推進事業の中で、ゲリラ豪雨対策のフォローアップ分科会を R5 年度以降も継続して開催していく予定であります。環境省からは以上となります。

【大阪府 都市整備部河川室河川整備課計画グループ 主査】

50 ページより大阪府河川情報のリニューアルについて説明させていただきます。R4 年 12 月に大阪府の河川防災情報を大幅リニューアルいたしました。改良点として、1 つ目として、閲覧可能情報の増加という形でこれまで閲覧できた水位・雨量・貯留施設の状況に加え、新たに同一画面上でナウキャストや水門・鉄扉等の各種施設の開閉状況や開設避難所の状況等の情報を確認できるようにしております。2 つ目として、スマートフォンに対応させ、スマートフォンの位置情報から自分の位置と周囲河川の状況、避難所の情報が一目でわかるように画面についても改良いたしました。3 つ目として、リアルタイム化として、水位情報を 10 分単位で提供していたものを 1 分単位で提供・閲覧できるように改良いたしました。これによりリアルタイムの水位上昇状況を確認できますので、避難活動につなげていただきたいと考えております。来月 4 月より、同一画面上にて土砂災害の防災情報や土砂災害警戒区域や洪水リスクのハザード情報というものもみられるようになりますので是非ともご活用いただけたらと思っております。大阪府からは以上です。

【高槻市長】

本市の最近の取り組み事例を報告いたします。51 ページより、氾濫を出来るだけ防ぐための対策に位置付けられる、雨水貯留施設の整備について報告いたします。本市では H24 年 8 月に既往最大降雨となる 110mm/hr の降雨があり、約 900 戸の床上・床下浸水が発生したため、この浸水被害をきっかけに総合雨水対策の取り組みを開始いたしました。この取り組みの中で雨水貯留施設についてはこれまで 2 カ所整備し、3 月末には 3 カ所目となる貯留施設を、商業施設が集積する JR 高槻駅前に設置し、浸水被害を軽減します。この施設は高槻駅北駅前広場の整備に合わせ、駅前のバスロータリーに貯留管を整備し、駅前広場に貯留槽を整備したものとなっております。また小中学校の工程を活用した雨水流出抑制施設においても H29 年度以降継続して実施しており、R4 年度には 2 校で実施いたしました。すでに整備完了している施設では、計画規模以上の降雨時にグラウンドに雨水が貯留され、雨水の流出を抑制している状態が確認できます。続いて 52 ページですが、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策に位置付けられる森林整備保全について報告します。H30 年台風 21 号により本市の約 4 割を占める北部山間地域において約 600ha の風倒木

被害が発生いたしました。右上に示すように倒木による道路や河道閉塞なども発生し、その被害は甚大かつ広範囲にわたり、被災直後には国土交通省のヘリコプターによる調査支援を受けるなどして被害の把握に努めました。被害発生直後から関係機関と幾度も協議を重ねまして、3か月後には局地激甚災害の指定を受け、復旧に着手いたしました。森林の荒廃による土砂流出や保水機能の低下が懸念されました。森林災害復旧事業にあたりましては、林野庁・大阪府ならびに本市の補助により、大阪府森林組合が優先度の高い森林約123haの復旧を本年度までの5か年で行いました。本事業は膨大な数の倒木や急峻な地形、植栽木の定着など、困難な課題が山積みでしたが、ドローンを活用した測量や資材の運搬、高性能林業機械による安全かつ効率的な作業を実施し、被害カ所の植生の回復を図りました。引き続き早期の復旧再生に取り組み保水機能の回復などを目指します。続いて53ページについて、被害の軽減、早期復旧・復興のために位置付けられる市政施行80周年事業の高槻市全域大防災訓練についてであります。今回の訓練は大型台風の接近に伴う大規模風水害・土砂災害を想定し、災害リスクや取るべき行動をタイムラインにそって確認・実践することを目的に1週間にわたり実施したもので、中核市レベルでは他に類を見ない取り組みです。この訓練を行うにあたって、近畿地方整備局をはじめ、関係者の皆様に多大なご協力をいただきました、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。訓練の概要について、1/23～27の防災情報取得訓練では、右上図の想定された台風進路図の時間軸に合わせて市から避難情報などを随時発信し、その情報を市民に確認いただくとともに、災害への備えを考えていただきました。1/28の市民避難訓練では、市内40カ所の避難所において水害・土砂災害時における避難行動等を確認するとともに、一部の避難所では新たに市営バスによる広域避難訓練を実施しました。また合わせて防災関係機関と連携した各種訓練も実施しました。1/29には安満遺跡公園にて、学ぶ・見る・体験するをテーマとした総合防災訓練フェスを開催し、防災関係機関の訓練に加え、多くの展示体験やイベントなどを実施いたしました。なお、訓練の参加者は28日が約5,700名、29日が約26,000名と多くの方にご参加いただき、防災について認識を深めていただく良い機会になったと考えております。また今月19日には、大防災訓練の締めくくりとして、東日本大震災をはじめ、被災地として度重なる災害対応を経験するとともに、他の被災自治体を積極的に支援する福島県相馬市の立谷市長をお招きし、防災シンポジウムを開催いたします。これらの取り組みを通じて災害は必ず起こりうるものという意識を高め、地域防災力の向上を図ります。流域治水の取り組みはハード・ソフトの多岐にわたり、なおかつ事業規模も様々ですが、我々基礎自治体の取り組みが流域治水プロジェクトを支えているという意識をもって、継続的に取り組むことが大切だと考えております。本市においても引き続き流域治水の取組を一丸となって進めてまいります。以上で事例紹介を終わります。

【枚方市上下水道部長】

54ページより報告いたします。資料の上段にあります背景といたしまして、枚方市の北

部に位置する樟葉地区では、大雨により過去から度重なる家屋への浸水や道路冠水が発生しています。H24年には観測史上最大の降雨量を記録し、甚大な浸水被害が発生しました。これらの浸水被害を軽減するため、H27年度に枚方市樟葉排水区下水道浸水被害軽減総合計画を策定し、H29年度から雨水貯留管などの整備を進めております。次に、工事の内容としては貯留管全体として樟葉東公園を発進し、樟葉中央公園に到達する直径5m・延長1kmのシールド工事及び、流入管の推進工事となっております。効果として、ゲリラ豪雨など排水能力を超える降雨の際、道路にあふれた雨水を一時的に最大約2万m³貯留することが可能となり、浸水被害の軽減が見込めます。また、一時的に貯留された雨水は雨が止んだ後に排水先の川の水位を確認しポンプで配することにより、次の雨に備えることが可能となります。PRとして、枚方市では浸水被害軽減事業推進するとともに広報活動にも取り組んでおり、近隣の小学校や住民を対象とした現場見学会の開催や、事業紹介の動画を公開しています。この動画については、360度カメラで撮影しており、視点は自由に変更可能な、楽しんで貰えるものとなっております。55ページ以降にパンフレットを添付していますので、後ほどご参照いただければと思います。以上が紹介となります。

以上